社会を明るくする運動

法務省が主唱する「社会を明るくする運動」。市では啓発事業の一環で、市内の小中高校生を対象に作文を募集しました。広報きくち11～1月号で各部門の最優秀作文を紹介します。

中学生の部最優秀作文

一羽のスズメが教えてくれたこと

泗水中学校3年　永田咲希さん

犯罪や非行のない地域社会づくりを目指すためには、何が必要なのだろう。そう考えた時、私は一つの出来事を思い出しました。

今年の三月、私は一羽のスズメに出会いました。その時そのスズメは、私の家の屋根付近から落ち、右足を怪我していました。私はそのスズメに、「ササミ」という名前をつけ、怪我が治り飛びたてるようになるまで世話をすることにしました。スズメの正常体温は四十二度と高いのですが、その日は気温が低く温めても温めても、目も口もあけてくれませんでした。しかし、ずっと湯たんぽで温めていたところ、「チー」と鳴いてくれました。私はとても嬉しくて泣いてしまいました。それからササミは、とても元気になりました。私や母が手を伸ばすと手のひらに乗ってきたり、必死に翼を広げて飛ぶ練習をしたりと、その姿は愛らしくて、その頃にはこのまま育てていきたいという気持ちになっていました。しかし、ササミを保護して二週間が過ぎた頃から、次第に右足の怪我が悪化していきました。ササミは、左足だけでジャンプしながら前と同じように、手のひらに乗ってきました。右足が不自由なのに必死に生きていました。それから数日後の夕方、ササミは天国へと旅立っていきました。まだ空を飛んでいないのに、なかまと離れて一人（一羽）で寂しかっただろうなどと考えると、「悲しい」という気持ちが込みあげてきました。そんな時、母は私に対し、こんな言葉をかけてくれました。「ササミは咲希と遊べて楽しかったと思うよ。それにね。あのまま気づかなければ、ササミは寒い中で死んでいたんだよ。ササミは幸せ者だね。」

私はその言葉で、悲しく落ち込んでいた気持ちが軽くなったように感じました。

この出来事から私は、二つのことを学びました。

一つ目は、「悲しい」という気持ちを持つことは、とても大切だということです。「悲しい」気持ちは様々ですが、殆どが、嫌なことがあった時に感じるものだと思います。しかし、それだけでは、「自分は」という自分本位の考えで終わってしまいます。自分が、「悲しい」気持ちを知っているからこそ、相手が悲しむようなことはしない。相手に悲しい思いはさせない。当たり前のようなことですが、改めてそのことに気づかされました。

二つ目は、周りの人の言動の大切さです。私は、母の言葉で救われました。それほど周りの人の言葉や行動は、人の心を慰め落ち込んだ気持ちから抜け出すきっかけになるのです。犯罪や非行に走った人が立ち直るために一番大事なことではないかと思いました。

私は一羽のスズメが教えてくれたこと、自分が「悲しい」と思うことは相手にも決してしない。周りに「悲しい」と思う人を作らない。私たちの言動は人を変えることができる。ということを大切にし、今、自分の周りにいる人や、これから出会う人に、言葉や行動で伝えていこうと思います。

プラチナ未来人財育成塾

未来のリーダーを育成することを目的として開催されている「プラチナ未来人財育成塾」。毎年各中学校の代表生徒を派遣しています。広報きくち11～3月号で参加した生徒の報告書を紹介します。

参加報告

「2050年の社会」

菊池北中学校3年　山川蔵之真さん

私は4日間、プラチナ人材育成塾オンラインに参加しました。Zoomを通して講義を聴いたり、全国の知らない中学生と交流をするというものは、初めての体験でした。

講義では5人の講師の方の話を聞きました。菊池先生の講義では多様な解や持続可能をテーマに目指すもの、すべきことを考えました。私が重要だと思った言葉は「遍在性」です。遍在性とは偏っておらず遍く広がるものです。これからは遍在性が大切だと感じました。小宮山先生の講義では飽和や自給、自立というキーワードがでてきました。科学技術や自然と共生に向けての努力を怠ってはいけないということも学びました。超大学・超教育をすすめるというものも、とても興味深く面白いと感じました。白波瀬先生の講義では人口構造の変化や高齢化、家族について学び、自分の身近な問題について考えることができました。私が重要視したのは男女平等です。昔は女性の社会進出が全く進んでいませんでしたが、現在は女性の社会進出がかなり進んでいると思います。これに関連づけて面白いと思ったことがあります。それは、男女共に社会で働いていけるので独身の人が増加していることです。独身の人が増加することは、少子化に関係があると思います。それだけでなく、晩婚化や非婚化といった変化も少子化の原因の一つと言えるでしょう。少子化・高齢化の問題はすぐに解決できることではないと思います。少しずつ対策をしていくしかないと感じました。天野先生の講義では、再生可能エネルギーについて踏み込んだ話を聞いたり、非接触給電といった次世代のシステムを学びました。省エネや二酸化炭素削減に関して普段から心がけ、実践しているか問われた時は、意識していても行動で表せてないなと感じました。僕は再生可能エネルギーをどんどん導入すればいいとずっと考えていました。しかし、導入されない理由や問題を学びました。今後、再生可能エネルギーがどんどん普及するためには、発電力や場所、自然との関りを理解し課題をクリアしないといけないなと感じました。山崎先生の講義では、宇宙開発や国際理解の学びを深めました。私は宇宙が好きなので先生の講義をとても楽しみにしていました。宇宙とは何か、宇宙サービスなど興味深いことが多く、中でも驚いたのが、宇宙条約の存在や宇宙が戦闘領域化するかもしれないことです。宇宙は誰のものでもないのに領有の禁止を条約に入れるのは、どこかの国が私有化しようとしているということです。勝手に宇宙で争いをするのはおかしいと思います。宇宙を理解し、間違った考えは持たないようにしなければいけないと感じました。

今回の五つの講義を聞いて自分たちの班で考えた2050年に目指す社会は『循環型社会』です。これを実現するためのキーワードは「遍在性」と「飽和」です。他にも再生可能、持続可能といったことも重要なポイントだと思います。人や資源、お金などがグルグルまわり、遍く広まっている社会、これが僕達の創造する循環型社会の形です。

この4日間で多くのことを学びました。今を理解し、未来を創造することが自分のできること、すべきことを増やすことにもつながると思います。2050年、自分たちが社会を引っぱる世代だと思うので、学んだことを忘れず、よりよい社会にしていければいいなと感じました。

（作文は一部抜粋）